リレーエッセイ

ハードルを越えて 35

満尾 祥一さん
（鹿児島市）

元々苦手だったスポーツを始めたのは40歳のとき。友だちに勧められて、弟と一緒にマラソンを始めたことがきっかけです。ストレス解消になることや、完走したときの爽快感がうれしくて、フルマラソンで4時間を切ることを目標に続けました。50歳のときに3時間54分というベストタイムを出しましたが、その頃朝の早い仕事をしていたので、だんだんマラソンから遠のくようになりました。吹き矢を始めたのは、勤めていた食品会社を定年退職した60歳のときです。ゆうあい館（心身障害者総合福祉センター）の職員の方の勧めで、吹き矢講座を受講したのがきっかけとなりました。当時講師をされていた故・角之上正人（すみのうえ　まさと）先生に「筋がいい」と褒められたことに気を良くして、次々と段位に挑戦し、昨年「日本スポーツウエルネス吹矢協会」の昇段資格審査で県内初の6段となりました。また、同協会の公認指導員試験にも合格し、公認指導員としても活動しています。集中力が必要なスポーツなので、集中力を高めるために、中断していたマラソンを再開し、太極拳も始めました。吹き矢は健康を目的としたスポーツで、呼吸にかかわる筋肉をすべて活用します。体幹が鍛えられることはもちろん、年齢、性別を問わず、私のように聴覚に障害があっても楽しめるのも魅力のひとつです。また、礼に始まり、礼に終わるといわれるスポーツなので、姿勢の美しさも採点の対象となります。今は、かごしま国体のデモンストレーション種目として、5月に鹿屋市で開催される競技会に向けて日々練習に励んでいるところです。まだまだ吹き矢を知らない人が多いので、少しでも広めたい、鹿児島県の吹き矢のレベルをあげたい、という思いもあります。

また、手話の講師もしていて、南さつま市や枕崎市、霧島市方面まで行くこともありますが、筆記による質問は手間と時間がかかるため、いろいろな店や駅で手話のできる人がいたらと思うことがよくあります。外国の方と簡単な英単語で会話が成立するように、簡単な手話ができる人が周りにいるだけで、とても助かります。鹿児島県でも手話言語条例（※）がもうすぐ施行される予定です。日常の生活の中に手話が当たり前のようにある、そんな日が来ることを待ち望んでいます。

10m先の的を狙う真剣な眼差しの満尾さん。現在7段は全国でも7、8人、6段は九州で7人。来年の段位昇格を目指し、練習に励んでいます

日本スポーツウエルネス吹矢協会の6段の認定証（左）と公認指導員の認定証

※手話言語条例…手話を言語として認め、手話が日常的に使え、ろう者とろう者以外の者が共生できる社会を目指す条例

【鹿児島市聴覚障害者協会】
鹿児島市真砂本町 58-30
鹿児島市心身障害者総合福祉センター（ゆうあい館）3F
FAX 099-257-6422